



☆インフォメーション☆

文化祭には、
図書委員会&司書コラボで
古書と雑貨の店
「そうせつ堂」を出店します。

みなさんへお願い

ご家庭に不要になった本・雑誌・漫画・参考書・赤本等
ありましたら、各クラス委員に渡してください。

図書委員さんへ

9月中の毎週水曜日昼休みに
図書館で委員会活動があります。
放送をかけるので、集まって作業を手伝ってください。



残暑お見舞い

この夏新着のホラー本ほか
「涼感たっぷり本」
コーナー展開中

『沖繩怪談短編集 私にはフーイー』恒川光太郎/アィ
ファクトリー、『雷の季節の終わりに』恒川光太郎
/KADOKAWA、『鬼談』京極夏彦/KADOKAWA
・『世界のお墓』/ネイチャー&サイエンス/幻冬舎 ほか

時事問題

9月の時事の欄 健康情報の「虚」と「実」

臍帯血・コラーゲン・ヒアルロン酸・コンドロイチン・トリプトファン・・・ コマーシャルに眉唾あり。

臍帯血が科学的根拠を持って有効なのは血液の癌。しかし、一般の癌細胞を消滅したり、肌の若返りの機能をうたって、ビジネスが成立している。タンパク質の分解を例に、様々な怪しい健康情報に迫る。

「話題本やベストセラーばかりが目される・・・」

「くっ、くやし〜」と、
身をよじっています。



これ読んで良かった!と、言わせたい・・・☆

ハードなスパイ訓練に興味はないかい?



『英国情報局秘密組織 **チェラブ**
Mission』スカウト/ロバート・マカ
ワ/ほるぷ出版

イギリスの諜報機関 MI6から依頼されて動く子どものスパイ組織がチェラブ。主人公の少年は、アル中の母を亡くし、施設で暮らしていた。悪い仲間のトラブルに巻き込まれ、矯正のために連れて行かれたのがチェラブだった。類まれな数学の才能、行動力を見込まれ、スパイの訓練生になる過酷なテストを受けることになる。街の悪ガキの悪態や学校でのトラブルは日本と比べものにならないくらい強烈。スパイ訓練も子ども相手に容赦ない。手加減なしのスリルとドキドキを味わいたいなら、たまには海外小説もいいよ。

ぶちぎりの好奇心! 研究者って変人?

『外来魚のレシビ 捕って、さばいて、食べてみた』



平坂寛/ 地人書館
朝の番組「す・またん!」でアリゲータガールを捕獲している珍生物ハンター、平坂氏による著書。この方は、基本的に捕獲した生き物は食べてみたい主義で、深海魚や昆虫まで試食済。外来魚は食用として入ってきたものが多いからと、果敢に調理し味見していく。「ぬめりがすごい」「味が無い」とか言いながら、それをカパーする調理法で味を試す。体を張った食のレポートはド迫力だし、見たこともないグロテスクな外来魚の生態も好奇心をくすぐる。

体内で繰返される分解と再生、その神秘



『動的平衡 生命はなぜそこに宿るのか』福岡伸一/木楽舎
遺跡の人骨を調べれば、彼らがベジタリアンか肉食主義者だったか判明するという。それは、骨のコラーゲンから抽出したタンパク質、そこに含まれる窒

素の質量数で判別でき、食物連鎖のどこに位置するかがまで分かる。この本は、分子生物学の美味しいネタをまとめたエッセイ。コラーゲンやヒアルロン酸を摂取しても、消化器官から出る分解酵素がアミノ酸レベルに分解するので意味がないとか、個人的には驚いた! 体内に取り込んだ食べ物を、分解し再合成し、体内で循環させて調和を保っている有り様がわかる。流麗な文章で読みやすい。理科系の読物なら福岡伸一さんの本は、ピカイチ☆ (以上、千葉)

真相は不明、まさに現代版遠野物語!



『山怪 山人が語る不思議な話』
田中康弘/山と溪谷社

山で仕事をしている方や、山のそばに住む方に、著者が直接話を聞いて集めたちょっと不思議なお話。著者自身が体験したカーナビにまつわる話などは、本当にありそうで、思わず背筋が寒くなるほど怖い。現代の科学で証明できそうなのに、説明できなかったり、やはり山には人知の及ばない不思議な力があるのだろうか...? 全てを信じるわけではないけれど、山に行くときのお弁当に唐揚げは入れないでおこう (笑)

謎解きを楽しみながらスイーツも楽しみマス

『夏期限定トロピカルパフェ事件』

米澤穂信/創元推理文庫



恋愛関係にも依存関係にもないが互恵関係にある小嶋君と小佐内さん。小市民をめざす彼らの正体は実は... 『春期限定いちごタルト事件』に続くシリーズ第2弾ですが単独で読んでも充分楽しめます。タイトルと表紙から可愛い学園ものかと思いきやしっかり推理物でラストが気になり一気に読み! 図書館で一気読みをしてこの作品を教えてください A君どうもありがとう。第三弾の『秋期限定栗きんとん事件』も、もちろん読みます。

誇大広告かと思いきや、ホントに読めます!!

『1時間でハングルが読めるようになる本』



ヒョル式超速ハングル覚え方講義
チャ・ヒョル/学研パブリッシング

「またまた〜、そんなはずないよね。」と疑いつつ読み始めましたが、読み進んでいくうちに「なんとなく読めるかも...」となり「なるほど! ホントだわ!」に変わりました。流石に私は1

時間でマスターは難しかったですが(笑)読み方だけでなく、覚え方まであるのがイイ!! K-POPの歌詞やInstagramのコメントも読める★

(以上 梅谷)

私は私として生きていく!

『アリブランディを探して』メリーナ・マーケッタ・作、



神戸万知・訳/岩波書店

女子高生ジョセフィン・アリブランディはイタリア系オーストラリア人。母は未婚で彼女を産む。そんな母を受け入れない祖母。オーストラリアで、イタリア系移民という事は差別対象だった。主人公は、そんな環境下でも、体面ばかりの学校、家族の事、恋愛問題に果敢に立ち向かう。周囲の固定観念に振り回されたくない! という姿はハラハラするけれど応援したくなる!

おれの肝っ玉お婆さんの生き方がいいのです!

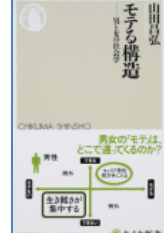
『おれのお婆さん』佐川光晴/集英社文庫



ある日突然、父の逮捕を知らされ、東京の名門進学校を退学することになり家にも住めなくなる主人公。そして会ったこともない北海道のお婆さんの元で暮らすことに。そこは、親と一緒に住めない中学生14人が暮らす児童養護施設だった。超パワフルなお婆さんに育てられ、悩みながらも将来に向かって成長して行く施設の子供達や主人公の姿に胸が熱くなる。読み終わる頃は鼻の奥がツーンとなった。

今まで何だか違和感あったのです。そうだったのか!?

『モテる構造 *男と女の社会学*』



山田昌弘/筑摩書房

「できる男」はモテるが「できる女」がモテるとは限らない。男性用の物を女性が身に付けていてもおかしくないがその逆は違和感を与えてしまう。しかし、このような現象を改善すべき! という議論はなされない。そこにまだまだ「男らしさ」「女らしさ」という価値観が残っているのだ。近年、ますます結婚・恋愛をしない人達が増えているらしい。本書で根本的な男女の非対称な感情を知り現状を考察してみては? (以上、田中)